

日常的な交流のためのネットワーク活用と情報モラル

兵庫県立教育研修所 IT教育研修員 浅田 宗良

1 はじめに

ネットワークを介したコミュニケーションでは、自分の前にある端末に対して、直接応答している錯覚に陥り、「画面の向こうに人がいる」ことをしばしば忘れがちになることがある。このことから、情報を主体的に選択・活用できる能力とともに、コンピュータやネットワークを適切に活用する中で、情報モラルを主体的に身に付けていかなければならないと考えた。

そこで、小学校での情報モラル学習用コンテンツを開発し、Web 化することによって、ネットワークを活用した交流で活用でき、情報モラルの学習がいつでもできるようにした。

2 情報モラル学習用コンテンツの開発

ネットワークを活用した交流を進めていく上で必要となる情報モラルを育成するために、情報モラル学習用コンテンツを開発した。コンテンツの内容は、児童が興味を持ちやすいように、登場人物を入れて物語性のあるものにした。また、クイズのコーナーを設けて、項目ごとに学習したことが身に付いているか確認できるような構造にした。そしてこれを Web 化し、いつでも学習できるようにした。



図1 情報モラル学習用コンテンツ

3 学習の展開

(1) 中学年での実践

3年生では、「初めての電子メール・掲示板 電子メールを使ってみよう」という単元で、開発した情報モラルコンテンツと学習プリントを用いて授業を進めた。この授業は、校内ネットワークを用いてのクラス交流をする前に行った。授業後の児童の感想では、「字を間違えないように書かないといけないし、書き終わった後は、間違いがないか見直しをしなくてははいけません。」や「乱暴な言葉で書いたら、もう返事をくれなくなるから丁寧な言葉遣いで、電子メールを書きたいです。」等の意見が出た。

どの単元の授業でも、受動的に情報モラルを学習するのではなく、内容についてどう判断していけばよいかグループやクラスで話し合うことによって、自分の気持ちやコンピュータの向こう側にいる見えない相手の気持ちについて、主体的に考えられるようになってきた。

(2) 高学年での実践

① ネットワーク環境を活用しての交流

5年生では、ネットワークを活用して、兵庫県S市とT町の児童が交流した。両校の児童は、1学期の自然学校で一度顔を会わせている。自然学校での直接交流では、ドッジボール等の交流を行い、すぐに友達になれた。2学期からは、ネットワークを活用した交流を始め、電子掲示板を使って、「音楽会」の様子や日頃の遊びのことなどを紹介しあった。

② 交流学习時での情報モラル

ネットワークを活用した学習を進めていく上で、情報モラルについて困ったことがあったときに利用できるのが、「情報モラルを考えよう」のページである。コンテンツは物語性があるものにしてあり、児童は友達どうしで「こんなとき、あなたならどうする？」と会話をしながら学習を進めた。

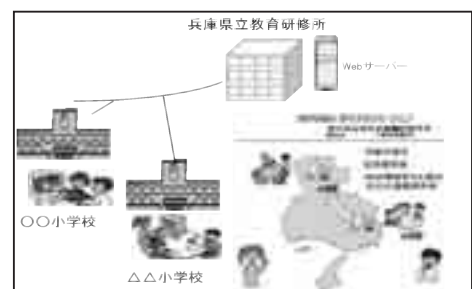


図2 ネットワーク環境を活用しての交流学习

4 成果と課題

児童は、情報モラルの学習をすることによって、インターネットを使っての交流学习をする際にも、「常に画面の向こうには友達がいる」ということを意識しながらの書き込みができた。これは、交流校の友達と一度出会っている点も大きかったようで、交流の中身もお互いに共通した話題が多かった。また少しずつであるが、著作権や個人情報の大切さについても意識するようになってきた。ただ今回の情報モラル学習用コンテンツは、テレビ会議を使って交流する場合のマナーやモラルについての教材はない。今後は、テレビ会議で必要なマナーやモラルを含めた教材を作成し、コンテンツの改良をしていきたい。